

学生デザインコンペのテーマに 「不利益」

京都先端科学大学

川上 浩司

不利益とは「不便だから良かったこと」です。そして、ユーザーに不利益をもたらすプロダクトやサービスを総称して、不利益システムと呼びます。この、不利益システムを新たにデザインすることをテーマにして、大学での演習や団体での研修を何年も前からやっています。ついつい無意識に便利を追求してしまうのが人の性ですが、「いや、逆にユーザーにとって不便なものを考えなさい」というのは、思考を柔軟にする研修にもってこいのようなです。しかも、ただ不便にするだけではなく、その不便から「益」が得られるようにしなければなりません。案外、ハードルの高いテーマです。

ただ、不利益システムをテーマにしたデザインワークを実施しているのは私だけではありません。たとえば、工業デザイナーが集う団体は世界にたくさんありますが、日本での全国組織は一つだけ、日本インダストリアルデザイン協会です。この協会の関西ブロックが学生デザインコンペを毎年開催しています。このコンペのテーマに、不利益が選ばれた時期がありました。つまり、新しいプロダクトやサービスをデザインして世に問うことを生業としているプロたちに、次世代を担う学生たちが知っておくべき考えとして不利益に着目していただけたわけです。2017年の「不利益デザイン」

に始まり、2020年のコロナ禍を反映した「不利益×コミュニケーション」まで、不利益テーマが続きました。

コンペに応募したいと考えている学生たちに不利益の講義をしたり、応募された作品をプロのインダストリアルデザイナーの方々と一緒に審査したりと、楽しい数年でした。私のように頭の固くなっていたおじさんには思いつけない、さすがが柔らかな頭の若者！と感心したくなるものがたくさん、大学生から応募されました。その中からいくつか、紹介します。

「おそうじカレンダー」は、ひめくりカレンダーが印刷してあるココココです。普通のココココは、ゴミが粘着する糊が一面にべったり塗ってあります。それとくらべておそうじカレンダーには、日付や曜日などひめくりカレンダーの文字の部分だけ、糊が塗ってありません。ですが、糊は透明なので、最初は文字が



読めません。掃除をして糊の部分に汚れをつけてはじめて、糊の塗られていない文字の部分が白く浮き上がるといいう仕掛けです。

何が不便って、カレンダーとしては、

掃除をしないと文字が読めないことです。スマホで「今日は何日だっけ」と確認するには、単にスマホの表面をタップするだけで済むのですが、おそうじカレンダーは数分かけて部屋の掃除をせねばならぬのです。掃除道具として不便なのは、一日一回しか掃除ができないことです。二回も掃除してしまうとカレンダーの日付が一日分進み過ぎますし、掃除を忘れた日があれば、カレンダーは一日分進まずに、過去の日付になってしまいます。

ひめくりカレンダーとしても不便だし掃除道具としても不便なのに、なんだか欲しくなるのは何故でしょうか？ つまり、これらの不便からどんな「益」が得られるのでしょうか？

ところで、スマホなどで日付を確認しても、数分後にはすぐ忘れて「あれ、何日だったけ？」となったこと、ありませんか？ 私はスマホを持っていないので

ミーはランダムに入れ替わります。以上、たったこれだけのシンプルなアイデアです。何が不便かというと、どちらが本物の鍵穴かがユーザーにはわからない、ということですね。ある日、鍵を閉めようとしてキーを鍵穴に差し込んで回すと、スカッと空回ります。そうすると「ちえ、今日はこっちがダミーだったか」と考えながら、キーをもう一つの鍵穴に差し直して鍵を閉めねばなりません。

これは、普通の鍵より手間がかかる、つまり不便な鍵がついたドアです。この不便からどんな「益」が得られるのでしょうか？

ところで、外出する時に玄関のドアの鍵を閉めたはずなのに、10メートルぐらい歩くとやっぱり不安になり、玄関に引き返して閉まっていることを再確認したこと、ありませんか？ 私は50歳を過ぎたあたりから、自分の記憶に自信がなく

すが、仕事場の机の上のパソコンのデスクトップには右上に日付が表示されているので、視線を右上に移すだけで、日付を確認できます。そして、すぐ忘れません。一日に何回も確認が必要な時には、その都度、パソコンを見ます。ところが、おそうじカレンダーがもしあれば、私は日付を忘れないと思うのです。なにせ、お掃除をしてやっとな手に入れた日付ですから。

「リマインドア」は、おそうじカレンダーが応募されたのと同じ年に応募されたアイデアです。英語のリマインド（思い出す）とドアを合体させた名前のドアです。審査員たちに「もう一捻りしたら今年の最優秀作だったのになー」と言わしめたデザインです。その、もう一捻りしたデザインは、以下の通り。

鍵穴が二つ並んでいます。一つは本物で、もう一つはダミーです。本物とダ

なり、玄関に引き返すことが多くなりまりました。また別の日、最初に差し込んだ鍵穴でキーを回したらガチャと鍵が閉まります。そうするとちよっと「ラッキー」と思います。鍵穴が一つだけの普通のドアでは「ちえ」も「ラッキー」もありません。リマインドアは、このちよっとした手間（不便）で、今日はどっちだったっけという記憶と共に、鍵を閉めた記憶にも自信を与えてくれるのです。

リマインドアで「ちえ」と思う日もありません。また別の日、最初に差し込んだ鍵穴でキーを回したらガチャと鍵が閉まります。そうするとちよっと「ラッキー」と思います。鍵穴が一つだけの普通のドアでは「ちえ」も「ラッキー」もありません。リマインドアは、このちよっとした手間（不便）で、今日はどっちだったっけという記憶と共に、鍵を閉めた記憶にも自信を与えてくれるのです。

川上浩司（かわかみひろし）

一九六四年生まれ。京都大学工学部、同工学研究科修了。京都大学助教授・特定教授などを経て京都先端科学大学工学部教授。不利益の研究で学会論文賞、出版賞多数。著書に『不利益という発想』（二〇一七）など多数。